NPO 法人芦生自然学校「マザーツリープロジェクト」への協賛

芦生研究林　藤井弘明

1．はじめに

平成 21 年 6 月 20 日(土)に行われた、NPO 法人芦生自然学校の「マザーツリープロジェクト」に協賛したので、その概要を紹介する。

「マザーツリープロジェクト」は、蔓延するナラ枯れの被害の中で残存するナラの大木を母樹（マザーツリー）として守り、その種子であるドングリを育て、次世代へ芦生の DNA を伝えることを目的に立ち上がったプロジェクトである。

2．マザーツリーの選木

残存する健全なナラの大径木の内、種子採取のアクセスが良い場所を条件に、歩道ブナノ木峠線と八宙中山線の交点付近（右位置図参照）のミズナラ 3 本（胸高直径：①96.6cm、②84.7cm、③84.5cm）をマザーツリーとして選木した。

また、当該木の枯死の危険性を考慮し、予備木として 2 本(胸高直径：④72.5cm、⑤68.0cm)を選木した。

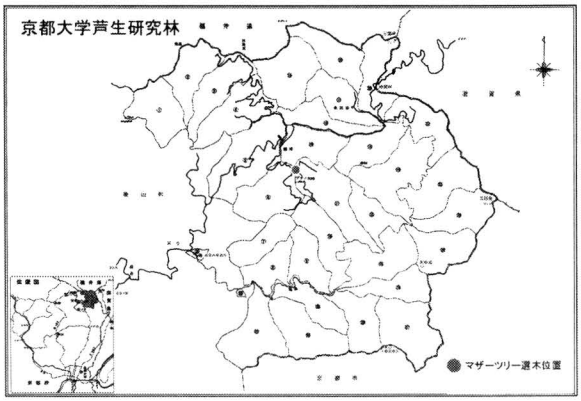

図 1 選木した マザーツリーの概略位置

3．ナラ枯れ防除

ナラ枯れは、カシノナガキクイムシ（*Platypus quercivorus*）により健全なナラ類の樹幹内にナラ菌（*Raffaelea quercivora*）が大量に持ち込まれ、樹幹内で繁殖し、形成層が壊死して通水阻害を起こすことにより発生する。枯死木には、虫の穿入孔から、粉状で褐色の木屑（フラス）を大量に排出している特徴がある。（黒田 2007）

被害木の地際付近の木屑（フラス）

今回ナラ枯れの防除方法として、研究林事務所付近のコナラで実践している、梱包用ストレッチフィルムで被覆する方法を採用した。

フィルムを巻くことで、樹幹にカシノナガキクイムシが穿入することを防ぐ方法で、フィルムの収縮性と密着性により地際部分の複雑な根張りにも対応できる。

地際から 3m 程度被覆すれば効果があると言われているが、非常に高い位置からフラスを出す枯死木も見かけるため、脚立や枝打ち梯子を用い、極力高い位置から被覆を行った。

また、他の被覆方法により防除を試みたナラが、根張り部分からの穿入により枯死したこともあり、地際部分の被覆を特に入念に行った。

4．作業風景

マザーツリーを選木

ストレッチフィルムを巻く

防除完了

記念撮影

5．まとめ

今回の共同作業を通じて、日頃われわれ職員ではカバーしきれない管理作業の部分について、”芦生の自然を守る”という形で、何らかの支援をしようという地元ボランティアのグループの役割を肌で実感することができた。

研究林としても、このような地元の方の協力を得て、芦生という地域の一体感を持って、この自然を守って行けるよう努力していきたい。

地元の皆さん、ありがとうございました。

引用文献

黒田慶子・高畑義啓（2007）ナラ枯れの被害をどう減らすか－里山林を守るために－．「ナラ枯れ」パンフレット、森林総合研究所関西支社「ナラ枯れ」パンフレット製作委員会．9-11.